

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いさわ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500303		
法人名	有限会社 アセットリンク		
事業所名	グループホーム いさわ		
所在地	〒023-0401 奥州市胆沢南都田字蛸の手443		
自己評価作成日	令和2年12月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに合わせた暮らしでのんびりと、手作りの美味しい食事で健康に。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設時の理念「みんなと生きていく、みんなに生かされている。共に支えあっていく、ともに支えられている。」の実践を目指し、職員の総意による運営方針「真心と笑顔で協働し、心豊かな暮らしを贈る」を基に、事業所の日課を定めず、利用者一人ひとりが自分らしく生活することを支援している。利用者支援の基本となる介護計画は、利用者の意向や希望を把握し、職員の意見や観察事項を反映し丁寧に作成されている。介護の実践に当たり、日々のミーティングで細かなことも話し合い、質の高いサービスの提供がなされている。事業所が特に力を入れている毎日の食事について、栄養士や職員を中心に、利用者の機能に応じた助力を得ながら、日常食、郷土食、行事食等に様々な工夫を凝らし、楽しみと喜びを与えている。そのことは、利用者の生きる意欲をもたらし、身体精神機能の維持向上に寄与していると窺われる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年1月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム いさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昼のミーティング時と職員会議時に理念を唱和している。また、事業所内の目につく場所数か所に掲示し、地域の人たちに開示すると共に日々確認しながら業務に向き合うようにしている。	事業所が、独自に作った理念「皆と生きていく、みんなに生かされている。ともに支えあっていく、ともに支えられている」と運営方針を、昼のミーティング時と職員会議時に唱和している。若い職員が、日々のかかわりで、利用者の知恵を知り、利用者に支えられていることを実感している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため、地域住民との交流を控えているため実践できていない。外出については近所の公園に散歩に出かける程度で、屋外への外出は控えている。	事業所は、旧胆沢町の中心部に近く、地域住民との交流が盛んに行なわれていたが、コロナ禍で交流が途絶えている。他者と接触を避けながら、近くの公園への散歩やドライブを行なっている。向かいの工場の社員食堂を、災害時の避難場所に提供して頂くことになっており、夏場には、工場の庭を散歩させてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申し込みを訪れた方からの相談にできる限り対応できるよう努めている。他事業所の紹介や連携を図った事例もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催となっている。事業所で抱える問題であったり、日頃感じている悩み等、サービスの方向性について客観的に助言を頂戴し改善に生かしている。また、次回に報告も兼ね情報共有している。	運営推進会議は、利用者、家族、隣人(隣の会社経営者)、民生児童委員、老人クラブ等、地域の関係者を委員にお願いしている。会議では、ヒヤリハット、行事等活動状況が報告されている。前回会議で委員から頂いた意見の検討結果や実践状況など、丁寧に報告され、自由に意見交換がなされている。会議は、1回、5回は書面開催、2回から4回までは集合開催している。	前回の外部評価の課題であった警察や消防関係、保育所の臨時参加について、年間計画を企画していたが、コロナ禍で外部の方々を招集できなかったため、次年度も、引き続き取り組まれることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話等で情報連携したり、市の生活保護担当者から入所を検討している事案を紹介いただく等の連携を図っている。	運営推進会議に、胆沢支所職員が参加しており、事業所の状況を知っていただいている。市介護保険担当課や生活保護担当課には、直接出向き、相談したり、情報を頂いたり、連携が図られている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いさわ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し理解を深めている。職員同士が注意喚起し合える関係性を築いており、検討が必要な事例が表出した場合は随時会議を開催し原因の究明と解決策の検討を職員全員で取り組んでいる。	3ヵ月毎に、職員全員を委員とする身体拘束廃止委員会を開催している。スピーチロックやドラックロック等の研修も併せて実施している。利用者の生活を観察し、服用している薬についてかかりつけ医に相談、減薬することで、日常生活に活気をもたらすことができている。「眠りスキャン」の設置により、睡眠状況を把握し、離床時のリスク回避に役立っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員は開かれた関係、協働の精神で業務に励んでいる。早めの気付きと早めの対応を心がけており、虐待に至る職員の心理や原因についても全体会議や個別面談を状況に応じて行い、理解を深めたくえで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年であれば外部研修に参加する等で学ぶ機会としているが、今年度は充実した状況には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍にて、代理人が県外在住のため郵送や電話のみでのやりとりになったり、主介護者が高齢であったりしたために、説明不足や理解不足が生じてしまうことは否めない。問い合わせには都度、懇切丁寧に応じることで了解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、意見箱、お便り、面会、その時々々の状況や雰囲気に合わせてお聞きする機会を設けている。また、第三者委員等の存在についても契約時をはじめ適宜お伝えしている。	運営推進会議に、利用者、家族が参加しているが、会議や面会が制限されており、直接家族から意見を聞くことができない。家族には、利用者個々の月々の暮らしや体調の変化をお知らせするオレンジ通信を郵送し、状況を知っていただいている。通信には、家族の意見・要望を何時でも承ることを記述している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議等で事業代表者にも出席いただき、就業規則等の整備や施設整備、職員厚生事業等の理解と協力を頂いている。	月1回の全体会議や毎日の「20分ミーティング」で、職員の提案が取り入れられている。今年は、降雪量が多く除雪の速やかな対応を提案し、職員が出勤する朝7時までに除雪してもらうことができている。物置の提案をしており、2棟目建設の予定があることから、考慮してもらうことになっている。一日リーダー制は、日勤者が当日の責任者となり業務を進めていくシステムで、職員が協力し合ってスムーズに進められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備と届け出、年に一度人事考課を実施し、内事情の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意欲の向上のため、希望する研修や資格取得研修等、内外問わず参加できるよう配慮しているが、今年は外部研修を控えざるを得ないため、内部研修に重点を置いて取り組んだ。一日リーダー制の取り組みや委員会・係り単位で企画する内部研修など、協力して取り組むことを念頭に置いて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は交流を控えているが、本来は他施設とのスポーツ交流、本部事業のデイサービスでの大浴場利用等で交流の機会としている。また、小規模事業所を対象とした研修会へは全職員が参加できるように調整している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では環境に慣れていただくことを優先とし、利用者本位の環境づくりを心掛けて接している。また、1対1でゆっくりとお話する機会を多く持つように意識している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いさわ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活歴の聞き取りや事業所での様子等をお伝えするなど、日常の出来事から要望や思いの聞き取りが自然に行なえるように意識し、利用者、家族から発せられた言葉には真摯に向き合い少しでも近づけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族からの聞き取りはもちろん、入所前に利用していたサービス事業者とも連携し情報提供を頂いてサービス計画書の作成を検討している。本年は感染症対策のため、入院中や事業所利用中のご本人への面会が叶わず、適切な情報収集に至らないことがあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所側の日課を強要することなく、レクリエーション活動、調理、掃除、洗濯物たたみなどへの参加はご本人の自主性にお任せしている。なお、個人に合わせたケアの確立により、活動への参加率向上傾向である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何よりも利用者、家族との信頼関係が大切と考え、ご家族の理解と協力を得たうえでサービス展開できるか検討している。家族と施設其々の力を生かした協力体制の元取り組んでいる。はがされにくいシーツ、肌が弱い方への対応、自家水道の水など。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は控えているが、本来であれば主が最も大切にしている人間関係をできる限り維持できるよう、来訪時にはご家族と同様に過ごしやすい場所の提供をする他、職員は常にコミュニケーションを取ることを大切にしている。	コロナ禍の前は、5人ほどの家族や知人が毎日のように来訪していたが、現在、面会や外出が制限されている。タブレットでの面接も理解ができなく、対応できない利用者もいた。気分転換に他者との接触の少ないドライブや散歩に出かけたり、職員がレクリエーションを企画し楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い苦手意識のある方々でも、場面や状況によって変化が見られるため、多面的な支援を心掛けている。そのため、何気ない行動であっても記録に残し共有することで支援につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、退所後の家族支援を行っている。施設移動した際は入所後利用者を訪問し、入所施設へのフォローを行っている。		
Ⅲ. そのらしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日によって、または体調によっても意欲や意志に変化が見られるため、毎日の寄り添い支援を大切にしている。思い込みに注意するため、正しく記録に残す術を学習し、総合的に把握できるように努めている。	利用者は、毎日、意欲や意志の変化が見られ、職員は、日々寄り添いながら、思いや意向の把握に努めている。把握した事柄については、確実に記録し、共有することとしている。事業所として日課表を作らず、利用者一人一人の意志で行動していけるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りの他、家族、親しい方等からの情報提供によりサービスに活かすよう努めているが、施設自体での暮らしに馴染みができていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	開設当初から、日課表のない暮らしを継続しており、利用者個々の今現在の気持ちや生活リズムに合わせた支援を心掛けている。そのため、毎日の生活記録を大切に、申し送りを徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを職員と共に実施し変更の必要性が発生したときには迅速にカンファレンスを行うこともある。介護計画変更時、更新時には職員全員で話し合いプランに組み入れている。基本的に最低でも3か月に1度は短期目標に合わせ、計画の見直しを行っている。	入居後、1か月の暫定の介護計画を作成し、その後は、3か月毎に短期目標に合わせ見直しをしている。アセスメント、モニタリングは職員と共に実施し、計画作成担当者が作成した原案に対して、職員は課題に対する改善策などを提案している。介護計画は、丁寧に作成されており、本人・家族に説明し了解を得、支援に取り組んでいる。	介護計画は、アセスメント、モニタリングが繰り返され、利用者の現状に沿った具体的サービス内容で、本人、家族の意向を取り入れ、また、職員の意見やアイデアを反映し、丁寧に作成されており、今後も本人・家族、職員一体となった計画作成の継続を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ロボットの活用と日常の支援方法から生じるケア方法の見直しを昼のミーティング時に出た話題を職員間で共有し、カンファレンスにつなげている。個別に記入されたことや申し送りから生じた疑問、気づき等を毎日の20分研修時に職員間で共有し、検討する体制づくりに努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いさわ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所のみで完結することなく、あらゆる視点・可能性から検討したうえで利用者本人(家族)が最善の方法を選択できるよう心掛け、課題に取り組む打ち合わせに利用者も参加し、検討会を持ちながら実行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り、在宅時と同じフォーマル、インフォーマルな資源活用に努め安心を提供している。買い物、床屋等、行きつけの店を希望される方が多い中だが今年度は控えざるを得ず、また感染を不安視するご家族の方からお断りの意向を受けることもあった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向によって、またこれまでの生活歴からかかりつけ病院を決めている。利用者の状態や必要性に応じて訪問診療に切り替える等、受診選択していただいている。また、そのかかりつけ病院とは適宜情報提供等で連携し在宅医療を支援していただいている。	かかりつけ医は、入居前のかかりつけ医を継続している。入居後、利用者、家族の意向により、訪問診療医に変更することもある。家族同行で通院の際は、医師が作成した様式で情報提供している。歯科受診においても、歯科医師会の情報提供用紙を使用している。歯科も訪問診療を活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携事業所の看護師さんとは、週1回の巡回訪問の際に、一週間の経過報告等の情報提供を行い助言をいただくことで健康管理に役立てている。他、緊急時の対応や相談支援等で連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退所には必要な情報提供を家族の了解を得て行い、また実際に病院に出向き、医師や看護師から入院中の状況について情報共有できる関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	居宅療養管理指導や医療連携看護師との連携のもと、看取りを経験している。入所時やサービス担当者介護の際に説明している他、ご家族から申し出がある場合がある。	入居時に、家族に重度化等の対応について説明している。看取りを希望した場合には、状態の変化に応じて意思を確認し、看取りの時期にも改めて同意を得ている。看取り近くには、担当医から家族へ説明後、担当者会議を開き、看取り介護計画を作成し支援している。家族が泊まり、看取れる体制を取っている。これまで、看取りを経験しており、人生の先輩の尊厳に配慮し、誠心誠意介護している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、連携先の医療機関・訪問看護師の指示を厳守している。今年度は実施できていないが、消防へ出向きAED操作研修を受講したり、消防署員を招いて研修会を開催する等、定期的に訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災協力者を選任し、事業所独自の「防災計画書」を作成し避難訓練は年2回実施している。防災設備の点検と災害備蓄品の点検は年1回実施している。	防災計画書に基づき、年2回避難訓練を実施している。総合避難訓練は、日中想定と夜間想定で行っており、防災の知識を持った地域の方が、防災協力員として参加している。災害に備え、食糧の備蓄やランタン等を用意している。向かいにある工場の協力を得て、社員食堂を避難場所としている。	日中に、夜間想定訓練を実施している。今後は、実際に暗い時間帯の訓練を実施し、暗さでの課題を把握し、検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はまずは利用者様全員と挨拶を交わすことから始め、毎日のミーティング時に介護の振り返りを行っている。排泄ケアの方法や個人情報の取扱いには特にも職員同士お互いに声を掛け合い注意するよう意識付けしている。	利用者を尊重する行動として、職員は、出勤し先ず利用者全員と挨拶を交わすこととしている。呼びかける際は、名字を原則としている。個人情報の取り扱いは厳重にしている。排泄時等は小さい声で誘導するよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	習慣化した事象であっても選択肢を設けたり意思決定を求め、言葉を待つように心がけている。前もって予定表を渡し、考える時間を作ったり、短期記憶の保持が難しい利用者様や耳が遠い利用者にはホワイトボードを用いる等工夫している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当日の予定を説明したうえで利用者自身の体調と意向を把握し確認を取っている。9人が9通りの暮らしを送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	其々の習慣や感覚に合わせて行っている。行事や外出の際にはお気に入りの服装が決まっていたり、男性ではポマードを使用したりスラックスを日常着とする方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った旬の食材や行事食等を提供し、話題の一つとなっている。利用者、職員で力を活かし、分担して実施している。	栄養士や給食関係で働いた経験のある職員が調理し、秋のさんま焼き、お節やお餅等、手作りの行事食、すいとん、小豆パット、沢庵、梅干などの郷土食を愉しんでいる。利用者は、個々の生活動作の力に応じて、野菜を下拵えし、お茶配を配ったり箸を準備したり、茶碗を拭くこと等を行っている。下膳は自分ですることとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が先頭になり改善に取り組んでいる。食事の摂取量が低下している利用者には間食や補食を用いて利用者のニーズに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立から全介助の方まで個別にきめ細かなケアを毎食後実施し、口腔のトラブルなく経過している。就寝前はイソジンやお茶うがいを推奨し、感染症予防にも一役かっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ミーティング時にパターンの確認と新しい情報を共有し、自立支援を念頭に置いた支援方法を実施している。おむつ、パット類の使用量削減へはもう一歩努力が必要で、牛歩の歩みではあるが改善を目指している。	毎日のミーティング時に、利用者個々の排泄リズムの確認と、排泄に関する新しい情報を共有し、支援方法を検討している。トイレ誘導可能な利用者が、介護用品を使用するようになり、費用が嵩むようになった。原因を検討し、状態に合わせた排泄用品を使用したところ、現在、おむつやパットの使用の削減が図られている。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の支援の徹底と繊維質のある食材をふんだんに使った食事、運動機能の確保を基本支援としているが、それでも自然排便が難しい方には毎朝飲むヨーグルトを提供することで改善している。慢性的な便秘症の方には医療連携のもと適切に下剤等を使用し早期の対応を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本入浴したいときに利用可能な状態だが、自然と週2回の利用に落ち着いている。入浴を億劫がる利用者が多い中で、浴槽につかれればゆっくりとしたい要望があり、時間配分に苦慮するためスムーズな流れで行うための様々なケアの工夫を実施している。	週2回入浴している。水・木・土・日の午後2時から4時としているが、希望により何時でも利用可能である。浴室には、家庭浴槽と機械浴を備えている。気分転換に4、5人の利用者が、少し離れたところにある同一法人のデイサービスの浴場に毎月出かけていたが、コロナ禍で今年度は中止している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調に合わせて、適宜午睡の時間を確保するようにしている。また、就寝に向けた支援の実施や介護ロボを使用した管理により、睡眠の質を理解し日中のケアに生かしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者処方箋はファイルし、職員は効能・副作用について一覧を作成し、理解に努めている。処方内容が変わった際は訪問看護師に内容を伝え、連携して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の何気ない暮らしの中に、自然と取り入れている。様々な得意分野の発見が日々の会話や活動を通して現れることが多い。話題に出たことは実践するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候によるが、日光浴や外気浴をできるだけ取り入れるようにケアに生かしている。散歩やドライブ程度であれば出かけた時間にある程度合わせて対応している。特別な場所に関しては利用者本人が気後れし意向として現れない傾向にある。	コロナ禍で、外出が制限されているが、他者との感染の機会を避けながら、ドライブや近くの公園の散歩など、できるだけ外に出る機会を多くしている。ウッドデッキでの日光浴、外気浴を実施している。近くの工場敷地内に松林や広場があり、夏には連絡を取り散歩に利用していた。12月には、夜のイルミネーションを観に出かけている。オレンジ通信編集時、利用者毎の写真の有無で、外出の頻度が分かり、対応に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお便りには即対応している。電話はコードレスなのでいつでもどこにいても通話が可能である。遠く離れたご家族へは「おれんじ通信」をお送りし、普段の様子をお届けしている。また、日常会話でご家族の話題が出た際は、連絡を取りたい意向も併せて確認している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間空間は天井が高く、吹き抜け屋根からの採光が眩しく明るい。皆さんはここで過ごされている。気候の良い時期はウッドデッキでお茶を飲んだり、四季を感じられる配慮を行っている。	調査場所の玄関(感染を避けるため)から、ホールを窺うことができ、天井が高く、広いホールには、食卓・椅子、大きく清潔なソファ、テレビが配置されている。所々に、昔話の傘地蔵や小正月の水木団子など、季節を感じさせるものが飾ってある。利用者と職員が、ゆったり、穏やかな表情で食事の後片付けや、会話をしていることを見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時に、廊下やウッドテラス前にソファを移動する等、その時々利用者の気持ちに配慮しレイアウトを変化させている。事務室を開放することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの個性により、部屋の滞在時間や馴染みのある家具の持ち込み量はだいぶ差が生じているが、興味がないかたにとっては「部屋」というよりは「休む部屋」という認識が強いと思われる。代わりに、リビングで過ごす時間が充実するよう努めている。	各居室には、エアコン、クローゼット、ベッド、床頭台が設置され、冬には、ツッパリ棒(職員のアイディア)に加湿用タオルを架け、湿度調整している。利用者は、囲碁のセットとテーブル等、それぞれ使用するものを持ち込んでいる。家族が、写真を置いてくれている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者お一人お一人の特性や認知症状を把握したうえで、安全が守られる範囲でできることを制限しない暮らしを続けている。		